

特別
報告

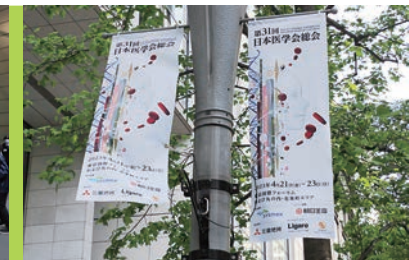
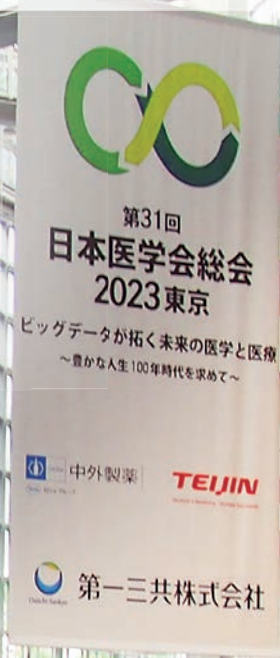
The 31st General Assembly of the Japan Medical Congress 2023 Tokyo

第31回日本医学会総会

2023 東京

ビッグデータが拓く未来の医学と医療
～豊かな人生100年時代を求めて～

第31回日本医学会総会2023東京が開催された。学術集会在4月21日(金)～23日(日)、学術展示が4月20日(木)～23日、博覧会が4月15日(土)～23日を会期として、会場となった東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリアには、一般も含め大勢の参加者が集った。「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」をテーマに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行を経験した日本が、眼前に広がる医学・医療の課題にどのように立ち向かうか、考える機会となった。



24年ぶりとなる東京開催 開会式には天皇皇后両陛下がご臨席

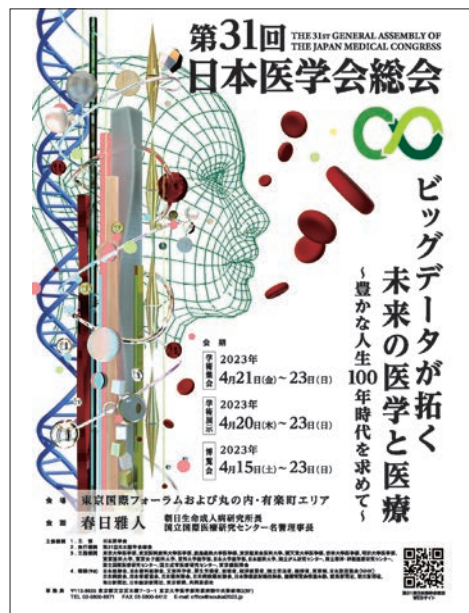
日本医学会総会が東京で開催されるのは、2011年の第28回総会が東日本大震災の影響によりWeb開催となったため、1999年の第25回総会以来の24年ぶりとなった。学術集会初日の4月21日11時から、春日雅人会頭（朝日生命成人病研究所所長/国立国際医療研究センター名誉理事長）をはじめ関係者が参加して開会式が執り行われた。天皇皇后両陛下がご臨席なされたほか、岸田文雄内閣総理大臣、^{あさひ}薬和生文部科学副大臣（文部科学大臣代理）、厚生労働省の福島靖正医務技監（厚生労働大臣代理）、日本医師会の松本吉郎会長が来賓として出席した。

開会式では、まず、日本医学会の門田守人会長が挨拶した。日本医学会総会は、1902（明治35）年に、第1回日本聯合医学会が東京音楽学校（現・東京藝術大学）で開催されたことを起源に、4年に1回開催されている。門田会長は、学会の歩みを説明した上で、現代の医療について、新しい診断・治療技術の研究開発がめざましく、すばらしい技術革新が行われている一方で、「倫理的・法的・社会的な課題（ELSI）」が生まれていると述べた。さらに、COVID-19の流行を経験して、病気を社会全体の中でとらえる医療システムの重要性も高まっていると指摘。地球規模の環境問題も含めて、いまこそ未来を見据えた議論が必要であると強調した。

次いで、挨拶した春日会頭は、医学・医療が大きな転換期を迎えていると述べた。そして、ビッグデータなどによるデジタル革命は医学・医療のあり方にも変革をもたらしていると論じた。その上で、春日会頭は、個別化医療の社会実装、発症前からの個別化予防、ウェアラブルデバイス・PHRなどによる自己の健康情報の一元管理、人工知能（AI）による医療の効率化などが可能になったと詳述。一方で、新たにELSIが生じており、社会との対話により合意形成が求められているとして、今回の学術集会、学術展示、博覧会の企画意図を説明した。

次いで、天皇陛下がおことばを述べられた。天皇陛下は、「医療の進歩はめざましいものがあり、わが国では人生100年時代と言われるように多くの国民が長寿を享受できるようになった。少子高齢化が進む中、日本が直面する課題を医学界と連携して、豊かで人間らしい人生100年時代に社会全体で取り組んでいくことが求められている。未来の医学・医療は、人間の一生を通じて、自立を支え、生き生きと豊かな人生に寄り添うことが期待される。そのためには技術革新のさらなる進展と、基盤となる基礎科学の発展が望まれる。同時に、進歩に伴うリスクや課題に取り組むことも重要である。医学・医療に携わる人が、進歩に伴う課題と誠実に向き合いつつ、人々の健康な生活のために、大きな力になることを期待する」と話された。さらに、COVID-19の流行において、研究や診療に尽力した研究者・医療関係者に労いのおことばを贈られた。

また、岸田内閣総理大臣も挨拶に立ち、日本の健康水準は世界最高水準で、社会のあらゆる方面の活力の源になっているが、国際的に例を見ない高齢化に対応することが課題となっ



第31回 日本医学会総会 2023 東京のポスター

第31回 日本医学会総会 2023 東京 役員

会 頭	春日 雅人	朝日生命成人病研究所所長 / 国立国際医療研究センター名誉理事長
副会頭 (会頭代行)	宮園 浩平	国立研究開発法人理化学研究所理事 / 東京大学大学院医学系研究科応用病理学卓越教授
副会頭	北川 昌伸	東京医科歯科大学副理事・副学長 / 国立がん研究センター理事 / 新渡戸記念中野総合病院・部長
	天谷 雅行	慶應義塾常任理事
	栗原 敏	慈恵大学理事長
	新井 一	順天堂大学学長
	尾崎 治夫	東京都医師会会長
準備委員長	門脇 孝	国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長 / 東京大学名誉教授
学術委員長	南学 正臣	東京大学大学院医学系研究科長・医学部長
総務委員長	齊藤 延人	東京大学理事・副学長
登録委員長	國土 典宏	国立国際医療研究センター理事
展示委員長	青木 茂樹	順天堂大学理事・健康データサイエンス部長 / 医学研究科放射線診断学教授
広報委員長	岡野 栄之	慶應義塾大学医学部生理学教室教授
式典委員長	沖永 寛子	帝京大学常務理事・副学長
財務委員長	間野 博行	国立がん研究センター研究所長
記録委員長	松藤 千弥	東京慈恵会医科大学学長
ダイバーシティ推進委員長	大野 京子	東京医科歯科大学眼科教授
ソーシャルイベント委員長	角田 徹	東京都医師会副会長
幹事長	山内 敏正	東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授
幹事長補佐	脇 裕典	秋田大学大学院医学系研究科代謝・内分泌内科学講座教授

ていると述べた。そして、政府は医療のデジタルトランスフォーメーション（DX）を重要な施策と位置づけ、2022年10月に医療DX推進本部を設置して、電子カルテ情報の標準化、医療情報の共有による質の高い医療の提供、ビッグデータを活用した研究・産業振興に向けた取り組みを進めていると説明。医療DXを通じたサービスの効率化や質の向上は、日本の医療の将来を切り開いていくものであり、政府としても実現に全力を挙げていくと強調した。